

昭和医科大学横浜市北部病院

病院だより5月号

【巻頭言】 技師長着任のご挨拶	P1
【医学講座コーナー】	P2
【病院からのお知らせ】	P3
【ご意見・ご要望】【編集後記】	P4

【巻頭言】 生活を取り戻す医療

— 急性期病院におけるリハビリテーションの役割 —



【リハビリテーション室】

渡部 喬之 技師長

このたび、令和8年4月より昭和医科大学横浜市北部病院リハビリテーション室の技師長を拝命いたしました、渡部喬之（わたべたかゆき）と申します。私は2006年に入職し、これまで急性期、回復期での臨床に加え、臨床教員として学生の教育にも携わってまいりました。

私たちが日常の中で当たり前のように行っている「歩くこと」「手を使うこと」「話すこと」といった動作は、生活を支えるとても大切な力です。これらの力を回復し、再び自分らしい生活を取り戻すお手伝いをするのが、リハビリテーションの役割です。

リハビリテーション室では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、リハビリテーション科医の指示のもと連携し、患者さん一人ひとりの状態や生活背景に合わせた支援を行っています。身体機能の回復だけでなく、食事や会話、日常生活の動作など、退院後の生活を見据えた関わりを大切にしています。

当院のような急性期病院では、手術や病気の治療が終わってからではなく、できるだけ早い段階からリハビリテーションを開始することが重要です。早期に身体を動かすことは、回復を促し、合併症を防ぎ、その後の生活の質を大きく左右します。医師や看護師をはじめとする多職種が連携し、患者さんの状態に応じて安全にリハビリを進めていくことが求められます。

当院では、リハビリテーション室の人員体制をこれまで以上に充実させていただき、早期から十分なリハビリを提供できる体制が整いつつあります。心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士、運動器や脳血管障害の認定・専門療法士などの専門資格を有するスタッフが在籍していることに加え、がんのリハビリテーション、ICUにおけるリハビリ、さらには精神科リハビリにも対応できる体制を備えていることは大きな強みです。

リハビリテーションは、単に身体の機能を回復させるだけでなく、「その人らしい生活」を取り戻すことを目標とする医療です。そして私たちは、「ここでリハビリを受けられて良かった」と患者さんに感じていただけるリハビリテーション室を目指してまいります。今後も地域の皆様に信頼される病院として、質の高いリハビリテーション医療を提供できるよう努めてまいります。皆様の健康と生活を支える一助となれるよう、スタッフ一同力を尽くしてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

医学講座コーナー「春期市民公開講座に向けて」

「肝臓がんからあなたを守る－早期発見、最新治療、そして予防の処方箋－」

日本における肝臓がんは、2000年頃をピークに減少傾向にあります。しかし、がん死亡者数の順位は全体および男性では5位、女性では7位となっており、依然として上位にあります。肝臓がんは進行するまでほとんど症状がなく、症状を自覚してから受診したのでは手遅れになることが少なくありません。肝臓がんを防ぐためには、「早期発見」、「最新治療」に加えて「予防」が重要です。

肝臓がんの原因について

肝臓がんの主な原因は、これまでB型・C型肝炎ウイルスでしたが、抗ウイルス薬の普及により劇的に減少しました、一方、アルコールと脂肪肝による肝障害が増加しています。これらはいずれも肝臓がんのリスクとなります。

肝臓がんの治療について

肝臓がんの治療は、肝臓の働き（予備能）と肝臓がんの広がり（病期）によって決まります。肝臓の働きが良く、肝臓がんが広がらないうちに「早期発見」し、「最新治療」を行うことにより、長い生存が期待できることも多くなってきました。治療は、手術（肝切除、肝移植）、経皮的局所療法（ラジオ波焼灼療法、マイクロ波凝固療法）、肝動脈化学塞栓術、放射線療法などを適切に組み合わせで行いますが、近年では「分子標的治療薬」や「免疫チェックポイント阻害薬」などの新しい薬物療法が登場し、進行した肝臓がんでも効果が得られるようになってきました。

肝臓がんのリスクを抑えるために

肝臓がんのリスクが高い方には「予防」が欠かせません。B型・C型肝炎ウイルスは、抗ウイルス薬（飲み薬）により、副作用がほとんどなく肝臓の炎症を抑えることができます。アルコールでは、お酒の量を調整する必要があります。生活習慣病による脂肪肝は最も注目されており、食事・運動など生活習慣の改善が求められます。特に、肝臓が硬くなりはじめている方は、医療機関での定期的な検査が必要です。血液検査で肝機能（AST、ALT、 γ -GTP）の異常を指摘されている方は、肝臓がんのリスクとなる病気が隠れている可能性があります。リスクの有無を確認し、適切な治療や生活習慣の改善が大切です。

（消化器センター 馬場 俊之 教授）

HOSPITAL INFORMATION

◆がんサロンを開催します

5月15日(金) にがんサロンを開催します。

テーマは「がんと運動 －いつまでも動ける体をつくるちょこっと運動－」です。

みなさんで一緒にお話をしてみませんか？

日 時：2026年5月15日（金）

場 所：昭和医科大学横浜市北部病院 中央棟9階会議室

テーマ：がんと運動 －いつまでも動ける体をつくるちょこっと運動－

<2026年の開催予定日一覧>

6月19日（金）化学療法の副作用 化学療法中の生活について

7月17日（金）放射線治療の副作用 放射線治療中の生活について

9月18日（金）治療による外見変化のケア（脱毛、皮膚や爪の変化など）

10月16日（金）利用できる制度 仕事と治療の両立、今後の療養先

◆春期市民公開講座を開催します。

【日時】2026年6月13日（土）13時00分～

【開催方法】ハイブリッド開催（オンライン・対面同時開催）

【開催場所】昭和医科大学横浜市北部病院 西棟4階講堂

「肝臓がんの原因とは？」「骨粗鬆症は年齢だけのせいではない！？」など気になった方、ご参加をお待ちしております。

【司会】感染管理室 詫間 隆司 教授

【テーマ】第1部「肝臓がんからあなたを守る

－早期発見、早期治療、そして予防の処方箋－

〈講演者〉消化器センター 馬場 俊之 教授

第2部「その骨折、”年齢のせい”で片づけていませんか？

－骨粗鬆症は静かに進みます－

〈講演者〉整形外科 大下 優介 准教授

第3部 患者サロン ～みんなで運動をしよう～

※オンライン参加の方は「第3部 患者サロン ～みんなで運動をしよう～」はご参加いただけません

◆ミラノ・コルティナ 冬季オリンピックでの活動報告

2026年2月にイタリアで行われました冬季オリンピックにスキーツーム全体のドクターとして参加しました。

イタリア北東部で行われた今回の大会は大きくわけて4つの会場で行われました。私が担当したのは「リビーニョ」というミラノからバスで4時間ほど離れた山あいの小さな村の会場です。

街の中心には「ビッグエア」と言われる競技のジャンプ台が建設され、向かいの雪山の斜面にハーフパイプ、クロス競技、スロープスタイル、パラレルジャイアントスラローム、モーグル/エアリアルなどの競技場が整備されました。

選手村の日本チーム棟では日本オリンピック委員会と連携して医務室を構え、医師2名理学療法士2名の体制で備えるとともに、危険度の高い競技では試合会場で待機し、怪我や故障を抱えながら戦いに挑む選手の練習や出場には一緒にスキーを履いて雪上に同行してサポートを行いました。今回の経験を今後の外来患者様の診療や、後輩学生スポーツ選手の指導に役立ててゆきたいと思います。

（整形外科 藤巻 良昌 准教授）



競技スタートエリアでのチームドクターミーティングの様子



女子アイスホッケー代表
昭和医科大学 小山 玲弥選手

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
<p>先生の指示に従い、診察の1時間半前に採血に来ていますが、採血までにしばらく待つことがあります。</p> <p>そのため、検査結果が出る時間も遅くなってしまいますが、もう少し早めに来る必要があるのか教えてください。</p>	<p>この度はご心配をおかけし申し訳ありません。</p> <p>採血は、特に午前中に混み合うことが多く、時間帯によってはお待たせしてしまう場合がございます。</p> <p>早めにお越しいただく必要があるかどうかにつきましては、検査項目や当日の診療状況により異なりますが、診察日前に採血を行い、診察当日は診察のみとできる場合もございます。</p> <p>詳細につきましては、担当医にご相談ください。</p> <p>今後も、できる限り待ち時間を短縮できるよう、業務改善に努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>(回答部署：臨床検査室)</p>
<p>1階のエレベーターに車椅子を押して入ろうとした時、入口の段差に当たって乗っていた父が落ちそうになりました。</p> <p>至急、対応願います。</p>	<p>この度は、ご不安な思いをおかけし大変申し訳ありませんでした。ご指摘を受け、直ちに状況を確認し、必要な調整を実施いたしました。</p> <p>今後も定期点検を徹底するとともに、日常点検においても十分注意を払い、再発防止に努めてまいります。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました (回答部署：管理課)</p>
<p>駐車場の障がい者用のところに、標章を貼付していない車が多いと思います。</p> <p>これでは本当に必要な人が使えません。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>現在、身体障がい者用駐車スペースには、以下の車両が駐車可能となっております。その内容を各スペースに掲示しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 『駐車禁止等除外標章』の許可証を貼付している車両 ② ①に準じる方が乗車している車両 ③ 病状等により、乗降及び歩行が困難な方が乗車している車両 <p>上記③の通り、病状等の理由により一般車両が駐車する場合もございます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(回答部署：管理課)</p>

編集後記

若葉が芽吹き、木々の緑が一層鮮やかに感じられる季節となりました。実は、5月は心の健康について考える「メンタルヘルス月間」として制定されています。もともとアメリカで始まった取り組みですが、現在は世界的に心の健康について考えるきっかけとして啓蒙活動が行われております。この時期は天候も環境の変化も激しい時期ですので、知らず知らずに心身に負担が掛かり、気分や体調がすぐれない方もいらっしゃるかと思います。そんな時は、家族や友人と会話したり、趣味の時間を充実させたり、散歩などで気分をリフレッシュする、そんな機会を設けてみてはいかがでしょうか。

そして必要な時は、自治体の相談窓口や医療機関を利用することも、心を健やかに保つ大切な取り組みだと思います。皆様も、この季節ならではの楽しみを見つけて健康にお過ごしください。

(臨床工学室 松崎技師)

【受付時間・休診日】

受付時間/初診 月～土 8時30分～14時00分 ※11時00分～14時00分は事前予約制です。
 受付時間/再診 月～土 8時30分～17時00分 ※当院の再診は予約制です。
 面会時間 各病棟で異なります。詳しくはホームページをご確認ください。
 休診日 日曜、祝日、創立記念日(11月15日)、年末年始(12月29日～1月3日)
 ホームページURL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

【診療担当医表】



北部病院だより 第214号(2026年4月1日発行) 発行 昭和医科大学横浜市北部病院
 発行責任者 坂下 暁子(昭和医科大学横浜市北部病院長) 編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)
 〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 電話045-949-7000(代表)
 北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

